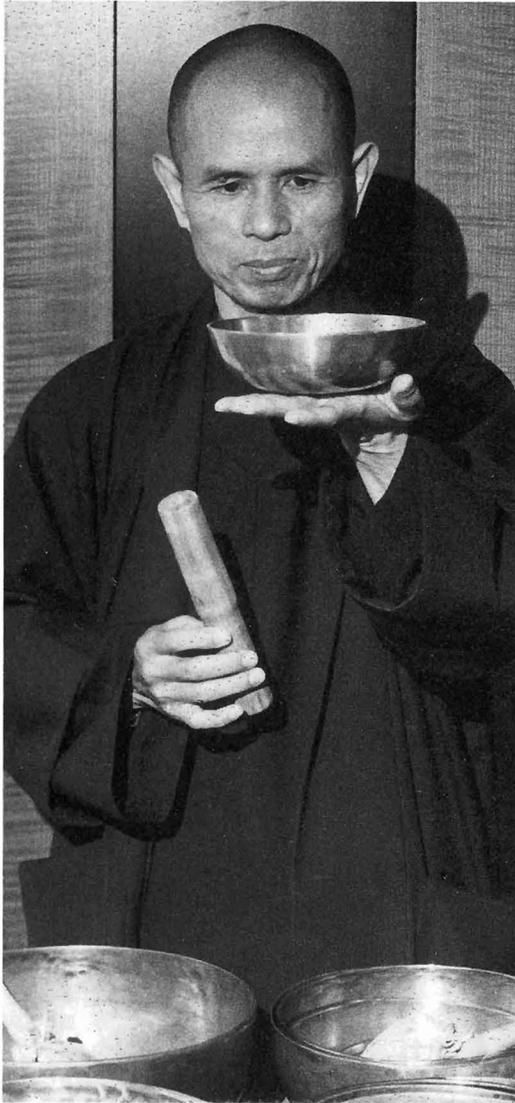


SOTO禅インターナショナル

発行日 平成7年3月15日 発行人 松永然道 編集責任者 福島伸悦
発行所 SOTO禅インターナショナル事務局 〒361埼玉県行田市下中条1619-2
Tel. 0485-57-0999 Fax. 0485-57-2347 振替 00100-6-611195 SOTO禅インターナショナル

第 4 号



Thich Nhat Hanh

ティク・ナット・ハンは、1926年生まれ。ベトナム戦争に対し、「行動する仏教者」の一人として非暴力・平和を訴え、その結果亡命を余儀なくされました。1973年以降、彼はフランスに在住し、難民救援活動に携わるいっぽう、欧米の人々に仏教思想のエッセンスを伝えることに心をかけています。平明で、美しい魂に響く言葉と、現代人向けに工夫されたやさしい瞑想法によって、彼の思想は多くの人々の共感を得ています。

そしていま、地球レベルの諸問題—環境破壊、南北問題、核、戦争など—に対応するための思想・行動の体系として全世界的に仏教が注目され、「地球仏教」という概念が生まれるに至っていますが、ティク・ナット・ハン は、ダライ・ラマと並び、その代表的指導者として評価されています。

みずからと世界の平和を、この一歩から。

「いまここに微笑む」

ほほえみは、とても重要なことです。日常生活において、ほほえむことができ、平和で、幸せであることができたなら、私たちばかりでなく、すべての人がそこからよい影響を受けます。これが、もっとも基本的な平和の仕事なのです。 (「ビーイング・ピース」より)

タイの上座部仏教の中かなり以前から新仏教ムーブメントが起きている。最近はその動きが確かなものになり、自らも開発僧と名乗って村起こし(植林、農業改革、学校教育、平和運動)のリーダーとして活躍している。この動きは周辺の国、特にカンボジアやラオスにも影響を及ぼし国造りの原動力になっている。ベトナムでは、今回講演を頂くと、ティク・ナット・ハン師がベトナム戦争時代より民衆の為の平和運動を行ってきた。ベトナムは大乗仏教であるが、師の説く非暴力の平和運動は旧南北両政府に入れられず祖国

を追われた。以来、亡命の地パリを拠点にして、大乗仏教の理念による平和と禅を説いて欧米を中心に活躍している。アメリカではチベットのダライ・ラマと並び地球仏教の指導者と評価されている。宗門はいま、人権、平和、環境をテーマに両祖の禅こそが地球仏教であるとして、さらに布行し深め様とされている。この時期にティク・ナット・ハン師を迎え交流出来ることは、この上ない好縁と思われる。われわれのテーマへの進歩の為にも、五月九日の師の講演に広く江湖のご参加を頂きたいと願うものである。

ヴェトナム生まれの詩人・仏教者 ティク・ナット・ハン師を迎えて

SZI会長 松永然道

SZI総会・懇親会

■日時 平成七年五月九日(火)

午後一時 受付

二時 海外開教師物故者追悼会

二時半 総会

終わって 懇親会

■会場 東京グランドホテル

■会場 三階「蘭」の間

■会費 一〇、〇〇〇円

(総会費・懇親会費・ティク・ナット・ハン講演会入場料含む)

ティク・ナット・ハン東京講演会

■日時 平成七年五月九日(火)

午後六時開場 六時半開演

■会場 有楽町よみうりホール

(JR有楽町駅前)

■入場料 前売 二、五〇〇円

当日 三、〇〇〇円

ティク・ナット・ハン師を知る

北米加州・オークランド 好人庵主任開教師 秋葉 玄 吾



い。

私がティク・ナット・ハン師を知ったのは五、六年前、参禅会に来ていた室さんという著作家に「英語の勉強をするなら良いテキストがありますよ」と教えられ、また、

フランス在住のベトナム禅僧、ティク・ナット・ハン師はこの四月下旬、予てよりの希望であった訪日を遂げることになった。マインドフル・プロジェクトが昨年七月組織され、仏教に関心を持つ若い人々を中心に、師の日本招聘のための様々の準備が調えられつつある。

SZIでも師の東京講演会を主催されることになった。(大変意義深いこととSZIの御努力に拍手を送ります。)それに関連し、当紙(昨年十一月号)上に師のことが紹介されていた。その他、日本ではほとんど知られていなかった師へのガイドラインが多く見られるようになった。殊に宗門の藤田一照師(アメリカ・マサチューセッツ州ヴァレ禅堂主管、今回の東京公演の通訳)が大法輪二月号に書かれた「ティク・ナット・ハン師のこと」が最も要を得て簡素、明解な師の紹介文となっている。(関心を持たれる方は御参照下さ

アーニーから多くの師についての知識を得た。

私は師の平易な英文の語り口は英語の勉強にちょうど良いと読みはじめた。好人庵の参禅者の中にも師を知り、その本を読んでいる人が幾人か居た。みな一様に、「みずみずしく優しい詩人の感性と知性を備えた師は、深い仏教のお教え、その実践法をきわめて日常的、

具体的事例の中で、判り易く美しい語り口を用いて説かれているが、なぜそうなのか考えてゆくと結構難しい。けれどもなにか感動的で心を動かす力がある、皆で師の本を共有したい」と言った。そこで好人庵でも五、六人で三ヶ月程週一回の講読会を開いて「タッチングピース」を読んだことがあった。

師のどの本も、般若、華嚴、唯識、俱舎などの思惟を見事に日常底の実践法へ収斂し、しかもごく平易明晰に語る。また青少年向けの仏教説話の作品もある。特に「古い道、白い雲」はブツダを物語る麗わしい大冊傑作である。

私は、師の本は、日本の若い世代の人々が仏教について知り、感じ、考え、日常生活の指針として生かすための、最高の手引き書となると思ってきた。

一九九四年の夏、師はカリフォルニア講演・リトリートのため西海岸においてになった。サンフランシスコ市のグレース・カ

テドラルという大きな教会で講演を行なった時、私ははじめて聴きに行った。カテドラル内は二千人を超える聴衆で満員、静かな熱気の伝わる平和な雰囲気、充ちていた。師の秘書役・真空師という尼僧さんのベトナム声明が入る。法話の途中幾回か、例のマインドフル・ベルが鳴り全員が深い呼吸を行うという講演形式であった。ベトナム戦争を経験した師の祖国の苦悩から生み出された師の重要なメッセージ、「エンゲージド・ブツディズム」を説く言葉は、聴衆に

対し、日常活動のひとつひとつに落ちついた、しかも生き生きとしたまなざしをもった注意力を向けよ、と励ましておられた。

講演後、主催者アーニーに紹介されて直接師の温顔を拜した。私は現代の菩薩を目の前にする思いだった。そして二日後、私は再び、ロスバドレスの山ふところ、オジヤイというベトナム人の山寺での師のリトリートへ行った。五、六百人の人々が、木に囲まれた広場に坐り小鳥のさえずり、あたたかい風の感触を楽しみながら、師のおだやかな、かつ心にしみる声に耳を傾ける光景を目にし、霊鷲山の説法もかくやとばかり思う深い



ティク・ナット・ハンと子供たち

この二度の師との相見の時、私は、師の非常に判り易い言葉でありながら、ブツダの教えに新しい生命を吹き込み、活々とした理解をもたらず著作を、日本の若い人々に紹介しなければなりません、ぜひ日本へ行ってダルマの生活をお話しして下さい、と力説した。師は、慈眼を注いで「私は何処でもまいます。多くの人に仏の教えのすばらしさを知って欲しいのです。」とおっしゃっていた。

幸い師の素晴らしさを日本人としていち早く知った棚橋氏や中野民夫氏(招聘実行委員代表)その他師の教えに感銘を受けた人々の尽力、又SZIの皆様の参加により、師の日本訪問が実現の運びとなり、大変有意義な仏教の国際交流が計られることになり、期待をもって師の訪日を待っております。宗門の皆様が深く関心を持たれ、多大の御支援を賜ることを念じます。

ハワイ北米南米

三開教総監を囲んで

去る一月十七日(火)、東京グランドホテルに於いて、総監会議出席のため来日されたハワイ開教総監・松浦玉英老師、北米開教総監・山下顕光老師、南米開教総監・森山大行老師を迎えて、大山陽堂・S.Z.I副会長と各開教地での現状並びに将来の展望等に関して、お話をうかがった。話の要約は次の通りである。

開教総監紹介



森山大行総監 (南米)

1938年、岩手県盛岡市に生まれる。1962年、静岡県島田市、官養院・白山孝純師より出家得度を受ける。1968年大本山総持寺特別安居。以後、故丹羽廉芳禅師(永平寺東京別院監院時代)に隨身。1970年、サンフランシスコ桑港寺主任開教師。1977年、永平寺東京別院僧堂、準師家任命。1980年、山梨の大菩薩禅堂開創。1989年国際禅仏教交流会設立。1992年南米開教総監を任命され、現在に至る。就任と同時に別院復興の事業に着手し、念願の、本堂並びに庫裡ホールの完成を迎え、今秋9月7日、落慶法要を厳修する予定。



松浦玉英総監 (ハワイ)

1911年(明治44年)、山形県鶴岡市に生まれる。14歳のとき出家得度。駒沢大学卒業後、1936年、ハワイ・ホノルル別院正法寺・駐在開教師として赴任。1939年、カワイ禅宗寺駐在。1941年、ヒロ大正寺駐在、日本語学校校長。第2次世界大戦がはじまると強制収容所に収容される。1945年、ヒロ大正寺に戻る。1946年、コナ大福寺駐在。1965年、カワイロア龍潜寺主任。現在のワヒアワに本堂移築計画を進め、1975年に本堂落慶。寺号を竜仙寺とする。1981年、ホノルル別院・正法寺主任、ハワイ開教総監に任ぜられ、今日に至る。



山下顕光総監 (北米)

1910年(明治43年)、岐阜県長良に生まれる。実家は鶴飼で知られる名家。1928年、出家得度。駒沢大学卒業後、川崎市の小学校で3年間の教鞭をとり、1938年曹洞宗北米開教師としてロサンゼルス禅宗寺に赴任。第2次世界大戦がはじまると強制収容所に収容される。終戦後一時日本に帰国するが、再びロスアンゼルスに戻り、1971年には曹洞宗北米別院禅宗寺主任、北米開教総監に任ぜられ今日に至る。カリフォルニア仏教各宗連合会会長も勤める。

1 言葉の問題について

英語圏、ポルトガル語圏での開教について、今後日本からの開教師は必要であろうか。

… 将来は、現地の開教師が育つことが望ましいが、現状ではまだ日本からの開教師に頼らなければならぬ。日本からの開教師の条件として、現地の言葉、文化を理解して欲しい。現在、三開教区とも優秀な現地の開教師を育てているが、絶対数がまだまだ足りない。現地の人を育てるにあたって、ハワイと北米、南米とは違っている。ハワイの場合、僧侶の資格等に関して、現地で養成する場合の条件をどの様に宗門と調整するかが問題である。北米・南米は、僧侶資格に関して、日本と同じように宗制にそって養成している。それらの得度者は師匠の日本の僧籍地に登録されている。開教師としての資格を得る場合、日本に安居しなければならぬ。しかし、現地の

2 生活保障について

寺院運営は日本の寺とは違うようだが、どのようになっているのか。

… 海外では寺院運営はメンバーの人たちが責任を持つ。だから開教師は月給(開教区によっては宗教活動以外からの場合がある)を得て、布教化に専念するようになるシステムになっている。「学道を目指すべきから貧乏なべし」といっても、寺族の収入に頼らざるをえず、実際の生活は大変である。日本であれば、他の寺院への随喜、托鉢ができるが海外ではそうはいかない。社



南米別院本堂・庫裡ホール

会基盤がまったく違う。開教師が努力しても、経済的な苦勞が耐えない。現地では、社会保険、健康保険、リタイアメントに関して対策が講じられているが、日本から派遣する以上、開教師の生活の保証が欲しい。

*各総監とも到着したばかりで大変お疲れの様子でしたが、貴重なご提言等を戴きました。S.Z.Iの会合等で我々の問題として共に考え、より多くの人たちに働きかけていきたいと思います。この紙面を借りて三総監にお礼申し上げます。

寄稿

ネブラスカ禅堂開単を通して

正法を伝える大切さ

岐阜県正宗寺住職 原田道一



修行のやり直し

翌年六月、故片桐老師のご支援により、北米のご真中、ネブラスカ州オマハ市にある小さな禅のグループに招かれて、単身でオマハの空港に降り立った。大学教授の家に居候しての参禅指導、英語のできない日本人が日本語のできない米国の家主に世話になり、五日間の接心を含めて一ヶ月全身全霊の体験であった。

んとしないくせに、だれかに何かを教えてやろうなんてケチなことを考えたばかりに、息がだんだん続かなくなってきたのである。私は気負いということに気付いた。気負ってやったことは、どんなに

日本列島の極寒地の北海道を除いて飛騨のこの地は、内地一番の厳寒地であろう。この寒さが、法を伝え、文化を育てているのだとつくづく思う。

六十歳の還暦、猪年である拙僧山寺の朝を土蔵を改築した禅堂で迎えることができた。坐に本当に親しむようになった直接のきっかけは、昭和五十二年秋、故片桐大忍老師を北米・ミネソタの地に訪問し、相見したことに始まる。「十五日以前を問わず、十五日以後を問う」ならば、まさしく晩秋のミネソタを訪れた日は、大切な時であり、初発心の日であった。

以後、夏冬数回ここを訪れた私は、大変なことに気付いた。素人のくせに、禅の修行もちゃ



ネブラスカ禅センター会員とともに (中央:筆者/左:故片桐大忍老師)

いいことのように見えても、それはその人の、その人らしいものではないということに気付いたのだ。というのは、アメリカの人たちが、あまりまじめに修行なさるので、だんだん恐くなってきたのである。そして、とうとうネブラスカ禅センターの開単式をしたその年を期として、以後渡米を中止してしまった。そして、飛騨高山の山寺の土蔵に坐り、京都の毎月一度の内山興正老師の正法眼蔵の講話をはじめ、参師問法の再出発、修行のやり直しを始めた。

私が一番気を付けなければいけないと思ったことは、修行は見せものではないということ。人の見えないところで修行するのが基本なのに、私は、修行を人との関わりあいの中でやるという方に中心を持っていた。そして、自分の内面の力が蓄えられていないということに気付いたのである。

正法を伝えることの大切さ

アメリカで経験したことは、英語ができなくても一緒に坐ることはできる。坐るということはあるがたいもので、目と目を合わせれば大体のことはやっていけるといふことであった。「これならかな



りのことまでできる」と。ところが、とんでもないことも起きるのであった。

接心中、応量器(略器)を使つての朝食時、私はうっかりオートミール(お粥)を自分の膝の上にこぼしてしまった。急いでそれを指でつまんで食べたのだが、それを見ていた彼らは、各々が順番に自分の膝の上にお粥を落して、つまみ上げて食べたのであった。

こんなに純真な人たちをだましたらいかんかというのを思い知ったのである。おのれの力量の不足と正法を伝えることの大切さを思い知らされたアメリカ体験であった。

クローズアップ・コーナー

ペンシルベニアより

刑務所の中の坐禅会

ペンシルベニア 平等山禅堂

主任開教師 ベナージュ・大円

二十三年間の日本生活の内の十一年間の僧堂生活を終え、一九九〇年、私が学んだ道元禅師の教えを一人でも多くの人に広めることが出来たらと思ひ、母の住むアメリカに戻る決心をしました。しかし、尼僧としてアメリカの地でやっていけるのか、とっても心配でした。なぜなら、乞食は、アメリカの法律で禁ぜられていて、どうして他の仕事をさがして働かねばなりません。でも剃髪している身ではどうすることができましよう。

そうこうしているうちに、私は、フィラデルフィアにあるペンデルヒル・クウエーカー・スタディー・センターへ、坐禅指導するために招待されたのです。そこは、一九六〇年代にアメリカで一番最初に行なった接心とされ、それを指導したのは



ベナージュ・大円師と重刑者刑務所の参禅者たち

臨済宗の安谷白雲老師でした。どうやって家賃を払ったら良いかもわからずに、その話を承諾してしまいました。そして、早速、母の住む隣の二〇〇年も経つクウエーカー教徒のアパートメントを借りることにしました。後にそのアパー

トメントは平等山禅堂となるのですが、次第に多くの人々が、くちずてにフィラデルフィアの地域から車で三時間もかけて週末の坐禅会にやってくる様になりました。そんなとき、私の母は、応量器を包む袱紗にアイロンをかけたたり、仏様に花を供えたり、参禅者に挨拶をしたり、盧行者のように私を支えてくれました。

このように次第に、私たちの小さな禅堂で坐禅をしたいという人たちが便りをもらうようになり、これにはびっくりしたので、刑務所の男の囚人からの手紙がありました。それは坐禅指導をしてくれというものでした。しかし、その時、私は車も持っていませんでした。そこで、地元の教会や、ウイメンズクラブなどで講演をさせていた折に、囚人たちからの手紙を紹介しました。すると「大円さん、この小切手で四つのタイヤでも買って下さい」というようなメモを添えて、中古車をかうためにと寄付が集まりはじめました。

そして、毎週月曜日の夜、私は、重刑犯罪者の刑務所に訪問するようになり、そこは、三十年から多種の終身刑にいたるまでの囚人たちが監獄されているところです。もちろん私はボランティアでしたが、囚人たちは、自分たち

のタバコやポテトチップを買っためのお金を蓄め（彼らは、刑務所の中の工場で働きますが、時給二十五セントです）、ガソリン代として小切手を送ってくれました。私は、まるで托鉢をしているかのように感じられ、本当に彼らの贈り物に感謝するばかりでした。しばらくすると、軽犯罪者の為の刑務所で坐禅の指導をしてくれるようにと政府から依頼され、謝礼を戴くようになりました。最初、私は、この契約に対して余り良い印象を持ちませんでした。大円さん、アメリカ政府が契約するぐらい坐禅がとも重要だと考えているんだよ」と参禅者たちが言うてくれたので、その話を引き受けることにしました。

軽犯罪者の為の刑務所では、あの意味で指導することが非常にむずかしいです。なぜならば、そこにいる囚人たちは刑務所の生活がはじめてだからです。中国本土のように遠く離れた外国から来たものや、多くは家族から離れ、心の傷を持った人々だからです。そして、彼らは予告なしに他の刑務所にしばしば移動させられます。両方の刑務所はともうるざいところ。私たちはそのような騒音の中で心の平安を見出さなければなりません。出所するとき、その囚人たちは、帰って住む家の近くに坐禅するグループがあ

るかないかさがします。くちずてに他の囚人もまた坐禅指導をもとめます。また、警備員でさえも興味を示すように坐禅が求められているのです。ペンシルベニア郊外二十五マイル半径内に七つの連邦刑務所がありますが、その中には死刑囚のいる女性刑務所も含まれています。

今日病めるアメリカ社会では、なにかが起きる前に手を差し伸べることがより重要であります。最近、十四〜十五歳の女の子が何人か、美術館で行なった坐禅会にやってきました。彼らは仲間に笑われるかも知れませんが、この坐禅会に出席するためにやってきました。そして、「どこへ行ったら心の平安を見い出せるのか？ 学校はダメだし、両親はいつも叱ってばかりいるし、どうしたら心の平安をみつけることができるのか？」と懇願するのです。

刑務所での活動と同様に、まったく広範囲なアメリカの生活の中で、私は坐禅をすることによって、心の奥深い内面の要求に答えられるようにしたいと思っています。そして将来は、だれもが自由に坐禅ができるような古い農場、或は狩猟小屋を見つけ、母と共に仏道に精進していきたいと思っています。

(翻訳 事務局)

ミネソタ

釣月山宝鏡寺建立計画

主任開教師 奥村正博

一八九三年、日本の仏教ははじめてアメリカ合衆国に紹介された。それからしばらくして、日系移民を主な対象とした開教が、ハワイやカリフォルニアを中心にはじまりました。しかし、日系以外のアメリカ人に対する坐禅修行中心の教化活動がはじめられ、各地に禅センターができたのは、一

九六〇年代のことです。まだ、三十年余りの歴史しかありません。

故片桐大忍老師は、一九六三年に渡米されました。アメリカに坐禅修行を伝えられた先駆者のお一人です。ロスアンゼルス禅宗寺、サンフランシスコ桑港寺、サンフランシスコ禅センター等で開教活動に従事されたあと、一九七二年



釣月山宝鏡寺仮禅堂

に小さなグループの願いによって、中世部ミネソタ州のミネアポリスに移られ、ミネソタ禅メデイテーションセンター・耕雲山願生寺を創設されました。以来、全米でも代表的な禅センターの一つとして知られるようになりました。

一九七八年には、ミネソタ州東南部のミシシッピー川の近く、丘陵と谷とが続く大自然の中の美しい地域に、二八〇エーカー(一一・三・四ヘクタール)の土地を購入され、本格

的な参禅道場を建立されることを発願されました。そこを釣月山宝鏡寺と名付けました。最初は、陸軍のテントを坐禅堂として使い、夏安居を行ないました。しかし、雨が降るとテントの下から雨が入ってきて、多くの坐蒲が水に使ってしまいました。そこでこのテントを張るためのプラットフォーム(基壇)を造り、それが後に、現在の禅堂の床になりました。坐禅堂はメンバーの木工によって、宝鏡寺境内の檜の木をきり、自分でちで製材して建てました。それ以後、冬期を除いた三季節に使用可能な台所、シャワールーム、東司、方丈キャビン、作業場などを建てて参りました。しかし、まだ宿泊施設がありませんので、参禅者はそれぞれ、自分のテントで寝泊りをしております。

故片桐老師は、庫院、僧堂及び衆寮が、恒久的な道場建立の第一段階だと考えておられました。これまで、アメリカ国内からの浄財によって、宝鏡寺境内地購入の支払いを済ませ、最初の建物を建築致しました。老師は、何人かの弟子たちと日本で托鉢をして、建築進行の資金にしようと思っておられました。しかし、その完成を見ることなく一九九〇年三月、癌のため六十二歳で遷化されました。アメリカの仏教にとって大きな痛手でありま

手でありま。片桐老師御遷化後



も、遺弟及び俗弟子の人々によって、願生寺及び宝鏡寺は護持され、私共は三年間毎年、日本各地で托鉢をして、多くの方々から浄財を寄せて戴きました。

アメリカの仏教が真にアメリカのものとなるためには、この国で指導者を養成できることが不可欠であります。故片桐老師が宝鏡寺僧堂建立を発願されたのも、それ

が眼目であったと推察致します。叢林での大衆一如の坐禅修行を抜きにしては、道元禪師の仏法が伝えられていくことは不可能かと存じます。また、在家の参禅者の人々にも、恵まれた自然の中で自己に親しむ参禅の場を提供致したく存じます。

故片桐大忍老師の僧堂建立という生涯の念願をひきつぎ、アメリカ国内において努力して参る所存です。しかし、なにぶん、仏教全体の支持基盤がまだまだ小さく、日本からの援助なしでは不可能なのが現状であります。何卒、趣旨をご理解戴き、釣月山宝鏡寺道場建築進行に御助力の程、お願い申し上げます。

宝鏡寺長期計画予備段階見積書

第1期	庫院	5,000万円
	受付、事務室、台所、食堂	
	ゲストルーム、寮舎、浴司、東司	
第2期	僧堂	3,000万円
	衆寮(浴司、東司)	2,000万円
第3期	仏殿	3,000万円
	開山堂	1,000万円
	方丈、客室	1,000万円
	総計予算額	15,000万円

ワン・ボール・ネットワーク ミネソタ

岐阜県・正宗寺住職・原田道一老師より、ワン・ボール・ネットワークを発足し、ミネソタ禅センターを支援していききたいという提案を受けました。S.Z.I.はその趣旨に賛同し、応援していききたいと思えますのでここに紹介いたします。

ワン・ボール・ネットワークとは？

岐阜県・正宗寺住職 原田道一

一鉢（托鉢用応量器）を縁とした草の根運動です。

地球禅仏教の原点を釈迦牟尼世尊が示された托鉢「頭陀行」の実践に学び、草の根の交流を願う。特に、ミネソタ禅センターの道友を精神的に、物質的に援助しながら、今我々が、お互いの初心を確かめあい独坐に円通することを目的とします。

昨春秋、ミネソタ禅センター主管・奥村正博師に京都でお会いして、最近のミネソタの様子を拜聴することができました。私にとっても大切な教えをいただいた故片桐大忍老師のご苦勞を存じあげているだけに、何かお役に立つことはないかと思っていました。そこでいろいろな方々に相談申し上げ

やがて世界全体を变革していく、新しい規範が登場し若い人たちが、その意味を認めはじめ。そして、その数がある一定の数を越えようと、大規模に規範が移りはじめる。新しい見方を受け入れる人々が増え、それが社会のコンセンサスになる。

透明な知性を持った
人々による呼吸運動

た結果、具体的には一万円の協賛金を戴いた方に、飛騨高山特注の千巻製応量器を郵送し、実費を引いた残りの五〇〇〇円をミネソタ禅センターへの浄財にと考えました。この応量器は橋崎通元老師の指導で作成し、老師には托鉢の禅画と解説を戴きました。

地方の草の根運動が今の、変革機に大切であると思っています。このワン・ボール・ネットワークの運動理念は、マリリン・ファガソンの「アクエリアン革命」によるものです。以下引用いたします。

心の変革を成し遂げた個人が
あちこちに生まれ、互いに知りあうことがなくとも目にみえない連帯となって広がり、

小さなグループの中に、人々がまず、自分自身を变革し、それからお互いに励ましあっていく。決して自分の考えだけに狂信的にしがみつかず、感傷的にならず、他人を高めながら現実からの遊離もせず、規律を守りながら縛らずもせず、その中で、社会が变革に向かって動いていくのだ。

無力で何人の賛同が得られるかわかりませんが、経済大国日本らしからぬ小さな浄財で心を通わず方法を願っています。ご意見、ご賛同をお願い致します。

■事務局 千五〇六一二一

岐阜県大野郡丹生川村正宗寺山内
ワン・ボール・ネットワーク・ミネソタ
代表 原田道一

☎ FAX 〇五七七一七八一〇八〇



鉢 孟 法 宝

お釈迦さまの根本精神を貫く生き方は「托鉢」です。

「拈華微笑」の話で知られる迦葉尊者を後継ぎにされたのは頭陀行第一（衣食住が少欲・知足に徹した方）であられたからです。日本で諸藝道の奥伝を「衣鉢を継ぐ」というのは、この佛心を受けているからでしょう。

永平寺の道元禪師は、「お釈迦さまから達磨さまへと代々伝えられた佛心（正法眼蔵涅槃妙心）が「袈裟・鉢盂である」と教えておられます。お釈迦さまは、自然と共に生きる目標として「蜂が花の蜜だけを使って、色も香りも損なわないような、

清らかな生き方をせよ」と自ら八十年を示されました。お釈迦さま、道元禪師をこよなく慕いになった良寛さまも「かつて高僧伝を読む、僧は清貧を可とすべし」を生涯守りぬかれた古佛でした。

僧堂では、鉢盂（應量器）を使う時「三輪空寂」施者・受者・施物が清らかなことを念じます。坐禅のかたちも、こころも、自利他・平等利益を表します。出入の呼吸・法界定印の手を差し出した「お頂戴の形」、合掌して「いただきます」の言葉は、日本の美しい風習になっていきます。【文 橋崎通元老師】

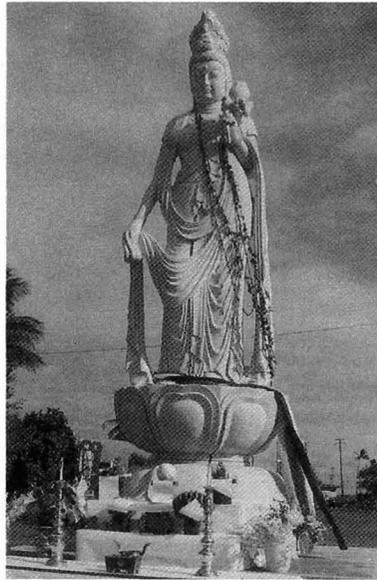
ハワイ

カワイ 禅宗寺便り

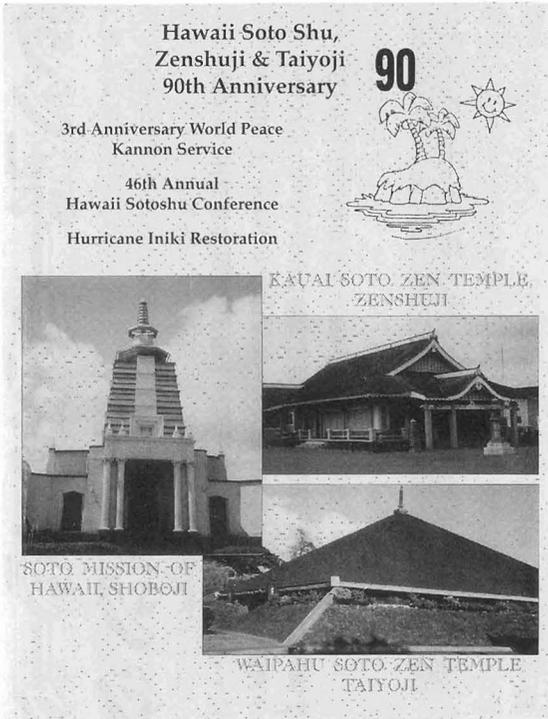
終戦五十年平和祈願のお知らせ

ハワイにおきまして、第二次世界戦争終戦五十年記念法要、並びに第五回「世界平和大観音」特別戦災諸精霊追善供養、平和祈願各法要が左記の予定で厳修されます。是非この機会にご来山、ご参拝賜りますようお願い申し上げます。

SZII会報二号にて、ハワイ開教、ワイパフ太陽寺、カワイ禅宗寺各々創立九十周年記念行事等について、日本から出席された秋田新隆師より報告がされましたが、この度、カワイ禅宗寺主任開教師・三好晃一師より、お礼状と手作りの記念誌が贈られてきました。そして、終戦五十年・平和祈願のご案内がありましたのでここにお知らせ致します。



世界平和観音像



創立90周年記念誌表紙

期間 一九九五年八月十三日(日) から九月十二日(火)まで

*この期間中八月十三日(前夜祭)、十五日(記念大法要)両日のみ禅宗寺主催にて催されますが、他の日は、禅宗寺ホール(五〇〇人収容)の使用などご用立てできませんものは喜んでさせて戴きますので、前もってなんなりと申し付け下さい。

時間 午前九時〜午後四時
会場 カワイ禅宗寺 ホール

世界平和大観音
☎(八〇八) 三三五-三三二-一

カワイ禅宗寺主任開教師
三好晃一 九拜

SOTO (曹洞) 禅インターナショナルとは?

目的

- 1 海外で布教に従事している開教師への支援
- 2 海外布教や宗門関係の国際問題の情報交換
- 3 国際化社会に対応する内外の布教の摸索

具体的活動内容

- * 開教師支援基金積立て
- * 会報の定期的発行(情報交換)
- * 研修会等への講師派遣(海外寺院の様子、国際化社会での仏教、海外から見た日本仏教、その他海外布教関係等)
- * 海外研修視察ツアー等へのアドバイス
- * 留学などに関する相談
- * その他

会員の資格

- * 上記の目的、活動に賛同する者
- * 年会費10,000円とする

□ 座名 義 SOTO禅インターナショナル
□ 座番号 00100-6-611195

スタッフ 会長 松永然道 副会長 大山陽堂 藤川亨胤
監事 田中哲彦 長田敬道 事務局長 福島伸悦
会計 西沢応人 事務局 堀部明宏 大場満洋 長谷川俊道
書記 飯島尚之

〒361 埼玉県行田市下中条1619-2 Tel.0485-57-0999 Fax.0485-57-2347

お見舞い

一月十七日に発生した阪神大震災により兵庫県・大阪府各地の御寺院さま並びに檀信徒各位におかれましては甚大な被害を蒙られましたこと、衷心よりお見舞い申し上げます。
何卒、一日も早く復旧されますことを祈念申し上げます。

平成七年三月十五日
SOTO禅インターナショナル

編集後記

「平和と国際化」をテーマに、昨年はシンポジウムを行った。戦後五十年を迎える今年には、ベトナム戦争体験を通して平和運動を実践されているティク・ナット・ハン師の東京講演会を開催する。
今、世界で仏教がどのように説かれていのか、そして、どのように実践されているのか、耳を傾けたいものだ。

(伸)